

## 令和4年度第1回「知事と一緒に生き活きトーク」発言要旨

- 1 テーマ：「産業を振興して岡山を元気に！」～企業の投資を続けてもらうために～
- 2 日時：令和4年7月21日（木） 15:00～16:10
- 3 場所：コンベックス岡山（岡山市北区大内田675）
- 4 参加者：県外から岡山県内へ立地した企業の代表者など6名

### 5 知事挨拶

- ・昨年度の県内企業誘致実績は、件数31件、投資額1,106億円、雇用創出も1,389人であり、これは私の知事就任以来、過去最高の数値である。
- ・非常にありがたい話であると同時に、今後も投資を継続してもらえる地域であり続けること、また、過去に投資をしていただいた企業からみても当時の投資が正解だったと思ってもらえるような県にしていきたい。

### 6 発言内容等

#### 【自己紹介、現況等】

- ・県内に船舶・航空機関連部材の製造拠点を持つグループである。県の補助制度もあり生産設備の増強に至った。現在、医療機器事業にも取り組んでいるが、県内で必要となる空き用地がなく、土地があっても工業用地に転用できない農地が多いと感じる。
- ・県外から新規に製造拠点を立地する場合に現行補助制度は充実した内容だが、県内企業については、新たに多くの雇用が満たすのが難しく、もう少し再投資を促す仕組みを検討してほしい。
- ・操業129年の化学製品製造BtoBの企業で、飲料メーカーや菓子メーカーに添加物として香料を収めている。香料は基本的に海外からの原料を輸入し国内で消費するが、日本全国で農業振興とマッチして海外に売り出していきたいという思いがある。国内には素晴らしい香りの原料が多くあり、岡山だと桃とか檜がある。
- ・40年前に勝央町の工業団地に大阪から進出し、近年、津山市に第二製造拠点を設けた。拠点間の距離が離れた津山に設けた理由は、火災を検討要因としたBCPの観点から。
- ・岡山は地震などの災害が少なく、この点はもっとPRをするべきだと思う。
- ・県には工業団地の造成はもちろん、工業団地に対するインフラ設備をより充実、有効なものにし、企業にとって使いやすいものにしてほしい。
- ・岡山県と茨城県で、段ボールの箱及び食品トレーのフィルムを製造販売している企業である。4年前に笠岡工場を笠岡湾干拓地に新築した際、津波が心配要因であったため、浸水を想定し2階部分に生産部門を入れている。
- ・再生ペット樹脂（使用済みのペットボトル）を再利用している企業である。津山市の久米産業団地に土地を購入し、先日工事を着工し始めたところである。
- ・スーパーハウスシステム建築、ユニット建築及びプレハブ事業等、工事現場の休憩所や災害時の応急仮設住宅をプレハブ建築などとして供給している企業である。最近では、病院の発熱外来や詰め所などの仮設事業や事務所の倉庫の建設をメインでおこなっている。
- ・東京丸の内に本社があり、全国68か所の営業拠点、8か所の自社工場、7か所

の委託工場を設けており、今回は瀬戸内市に自社工場を建設している。

- ・岡山県の地場企業であり、主に産業機械や部品をオーダーメイドで製造している。航空企業への参入も目指し、同業同士で切磋琢磨している。

### 【岡山県へ企業立地する利点や感じたこと、県の業務に対する思い等】

- ・岡山の魅力は、災害が少なく水が豊富であること。
- ・最近、人材確保が困難になってきている。岡山は大学が多いが、ここ1、2年は状況が悪くなっていると感じる。
- ・情報系の学生が、一般製造業よりもシステム会社に流れている感じがある。ぜひ若い人にも地元企業のことを知ってほしい。
- ・当社は工場ということもあり、できるだけ地元の高校生を採用しているが、最近採用に苦労している。今はなんとかやっているといるが、今後苦労しそうである。ただ、岡山工場は極端に離職率が少ない。離職率の低さの要因として、一つは居心地の良さがあるのは間違いない。人も企業も同じ大切なものとして考えている。入社後も適性を見ながら配属することを重視している。仮配属の前にも、3か月しっかりと研修を行っている。その後も3か月間しっかりと適性をみて本配属を行っており、人はとても大切にしている。
- ・岡山県の良さは山があり海があり、東京に比べ人らしく生きられ、自然災害が少ないことも相まりとても良い環境が揃っているところ。それもあってか茨城と笠岡で工場を建てたが、茨城県では採用の面では苦労したが、岡山県では採用で苦労したことはない。
- ・再生樹脂業界では、原料となるペットボトルをいかに効率よく集められるかが立地の焦点。西日本進出を検討の際、複数の候補先の中で岡山を選んだ一番の要因は、交通のクロスポイントであること。中国四国はもちろん、近畿圏、九州圏にも手を出せる位置にあるのは良い条件だ。また、県内の沿岸部と内陸部でどちらにするかは一長一短あったが、内陸部の方が広い土地を得られたので立地を決めた。ロジスティクス上からも、自然災害は少ない一方、迂回道路の選択肢もあり、良い環境に位置している。
- ・中国支店を設置の際、広島も選択肢だったが、岡山にした要因は交通の結節点（ハブ）であるということと、広島と大きく違い平らな土地が多く、工場を建てるには条件が良かったところだ。一万坪などの広い土地は広島ではかなり厳しい条件。関西圏や中国地区に加え、四国地方もカバーできるのは最大のメリットだ。気候も良い。
- ・先日、ウイングウィン岡山の会合で人材の話が話題に上がった。製造業を中小企業でもやっていけるのは、自動化できる部分もあるが自動化できないことをやっているから。今は国の制度も手厚く、借り入れも比較的しやすい状況で補助金制度も各種ある。しかし、申請条件で採用数がボトルネックとなる。
- ・大学生の就職では、マイナビのサイトを使う人がかなり多い。マイナビに登録している企業が80万社としたら、登録している学生は50万人。登録しても半分は取れない企業が出てくることになる。
- ・今の時代、皆大学まで行く傾向にあり、本当に高校生は少なくなっている。大学生も採用するとなると厳しい。企業は地方に工場は建てられるが、地元の学生を採用しようとしてもうまくいかない、ボトルネックはやはり人だと思う。

### 【岡山県の企業誘致の改善点等について】

- ・岡山はもっと発展する可能性を秘めている。改善点の一つには空き用地を活かせてない面がある。未利用農地について、用地交渉を行ってもなかなか貸していただけないことも多い。土地の効率的な活用等において、もう少しチャンスを積極的に活かしていくべきと思う。
- ・団地のインフラ設備について、県南では都市ガスが完備されているが、勝央工業団地はLNGを引くこととなった。津山産業・流通センターや久米産業団地もこのような状況だと思う。SDGsの観点からも、都市ガス設備の配慮は必要ではないか。電気についても一企業と電力会社で電力需給の話を行うよりも、自治体が間に入った方が調整はしやすいと思う。勝央工業団地の利点は、津山と美作から電線が引けているため、停電の恐れがない。そういう備えは企業誘致の売りに使えると思う。
- ・企業が農地を持つことが今はなかなか難しい。海外から果汁を絞ったカスでは本当のいい香りはとれないため、こだわるならまとまった土地が必要だ。農地規制の緩和などがかなえばよいのだが。
- ・2050年カーボンニュートラルと2030年の46%の温室効果ガスの削減目標について、どのように対応していけばよいかを考えている。2030年問題は、再生可能エネルギーを頼ればクリアできると思うが、それ以降はどんどん厳しくなってくる。そういった際に岡山では安定的に、電気・ガスの供給を確保できれば今後の継続的な投資にもつながるのではないかと。
- ・今は自分の土地の分を自前で用意することは難しい。皆で寄り集まって解決できる方法を模索していければと思う。
- ・県HP等に申請書の最新版等がダウンロードできるようになっていれば、より補助制度の申請がしやすいと思う。
- ・建設業界は人材不足で本当に苦労している業界だ。業界全体も高齢化してきており、どうしても現地での雇用が必要な面もある。今の学生は全国区での転勤をとっても嫌がる傾向がある。そういった意味では昔とだいぶ状況が変わってきている。働く場所さえあれば岡山はもっと発展できると考えている。
- ・今回、補助制度の適用には至らなかったが、ネックとなったのは様々な協力会社の社員と雇用契約をしているので「直接雇用数」が少ないという点。そういった方面での配慮も、今後検討してほしい。
- ・県内企業にも使いやすい土地を造成してほしい。なかなか希望にかなう土地はあるようでない。従業員の転勤もあり、「できれば近くに」とか考えると余計にない。
- ・昨今、導入機械設備は安全装置の追加などで、入れ替えを検討するだけでもより広い土地が必要となる。ただ、土地を買ってまで設備を更新できない企業も多い。工業団地によっては、空き用地を狙い撤退する企業を待っているようなところもある。
- ・今後、企業はSDGsやカーボンニュートラルを踏まえて事業を行っていく必要がある。県の投資継続を考えるに当たっては、そういったところも配慮し、制度設計をしていくのがよい。

## 7 知事まとめ

- 日本でやっても全然儲からなく、人件費の安い海外に出ていかないと輸出できない、アメリカで売ろうと思ったらアメリカで作らないと許されないといった理由で、「国内でもものは作れない」という声を聞くことに比べれば、国内の土地のニーズがある分、可能性を感じた。今後も企業誘致を頑張っていきたい。